

最終成果報告書

報告者氏名：多々野 顕 所属：福岡県立柳河特別支援学校 記録日：2012年11月

1 対象児の情報

(1) 学年

小学5年生の男児1名

(2) 障害名等

神経原性（筋性）の疾患、肢体不自由

(3) 障害と困難の内容

- ・筋力が弱く、教科書やノートの取り出しや取り扱いなどの操作に時間がかかる。
- ・上肢の可動域がせまく、パソコンのマウス操作やキーボード操作が困難。
- ・書字に時間がかかる。
- ・書き間違いをした際に、字を消しゴムで消すのに時間がかかる。
- ・集中できる時間が短い。
- ・考えをまとめて作文することが苦手で、書き出しに時間がかかる。
- ・発表することは好きだが、要点をまとめて話すことが苦手。

2 活動目的

(1) 当初のねらい

- ・教育アプリ全般を活用し、タブレット端末への興味関心を高める。
- ・タップ、スワイプ、フリック、ピンチイン・アウトといった基本操作を取得する。
- ・観察日記、給食日記、がんばり日記等、一人で自由に表現する。
- ・修学旅行に向けて、自分一人（少ない支援で）でできること増やす。
- ・主体的な表現活動を増やす。

(2) 実施期間

- ・修学旅行事前学習（9月）
- ・修学旅行（10月4日～5日）
- ・修学旅行事後学習（10月）
- ・写真日記（9月～12月）

(3) 実施者

只隈知子、多々野顕

(4) 実施者と対象児の関係

学級担任

3 活動内容と対象児の変化

(1) 対象児の事前の状況

- ・作文や感想文を書く際に、書きたいことを考えたり、思い出したりすることが苦手であった。
- ・自分の考えを発表する際に、まとまりを考えて話すことが苦手であった。
- ・鉛筆を使っの書字はできるが、書いたり消したりすることに時間がかかり、意欲が減退することがあった。また、そのために注意が散漫になることが多い。
- ・画面をタップする際に爪先を使おうとするため、うまくタップすることが難しかった。
- ・指先に一定の力を入れてスライド（3cmの幅）させることが難しかった。
- ・文字を入力する際に、キーボードの配列に戸惑ったり、タッチミスがあったりと、1分間に10文字程度の入力であった。
- ・みんなの前で司会、発表、発言する際に、自信がもてなく教師に助けを求めることが多かった。
- ・筋力が弱いため、物を操作したり、大きな物を動かしたりすることが難しい。

(2) 活動の具体的内容

① 「iPadに触ってみよう」 授業の取り扱い：自立活動の時間（週1回）

導入期として、ON、OFFや基本操作（タップ、スワイプ、フリック、ピンチイン・アウト）の習得をねらった。初めて見るiPadに目を輝かせていて、指先で動かせることの楽しさを感じることができたアプリを導入した。

「I love Fireworks（花火）」では、指先を楽しんで動かすことができた。一定の圧をかけながら動かしたり、繰り返しタップしたりして、その動きの工夫が花火の変化となって即時に現れるため操作への意欲が向上した。

「White Board（お絵かき）」を使うことで、まちがってもすぐに一つ前の作業に戻せたり、ワンタップで消せたり、ペンを持ち替える必要もないため、描くことに時間をかけることができた。特に、指先を工夫して使おうとする姿も見られた。

「Google Earth」では、回すことも難しかった立体的な地球儀とは違い、画面上の地球を自由自在に操作できる楽しさに夢中になって取り組んだ。その中で、フリック、ピンチイン・アウトを自



対象児の変化

- 自分で花火を打ち上げる楽しさから、夢中になってタップ等の操作を繰り返し、基本操作に慣れることができた。
- お絵かきでは、ワンタップで「修正」「消去」ができるので、効率良く制作に取り組むことができた。
- 簡単な操作で日本や世界の名所等を探すことに夢中になって取り組んだ。

【 教師の似顔絵を描いているA児 】

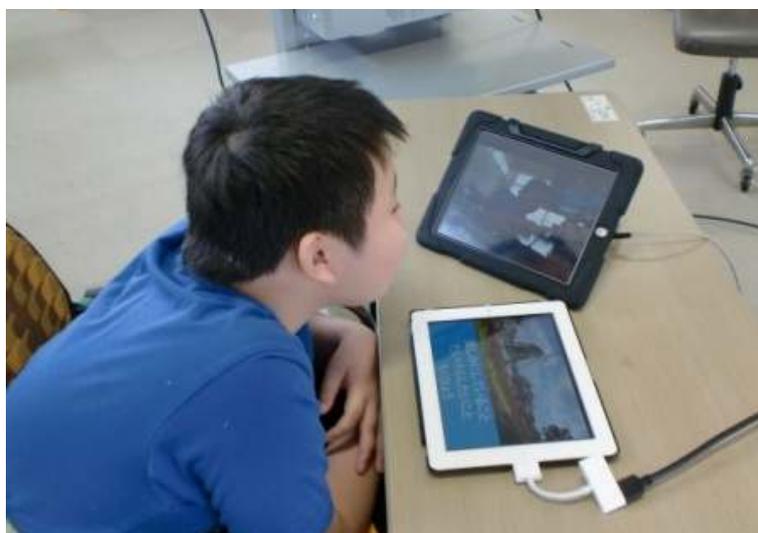
② 「iPad を使ってみよう」 授業の取り扱い：自立活動の時間（週1回）

学習への活用、校外（修学旅行）への持ち出しを想定し、「カメラ（写真・動画）」「Safari（インターネット）」「瞬間日記（写真日記）」を利用して、iPad のあらゆる活用方法の理解を広げることを行なった。

「カメラ（写真・動画）」では、学習の発表を記録し、即時に見直す（フィードバック）ことができ、話す声の大きさや話の伝わりやすさについて意識を高めることができた。

「Safari（インターネット）」では、修学旅行の行き先を検索したり、「Google Earth」で位置を確認したりすることができた。

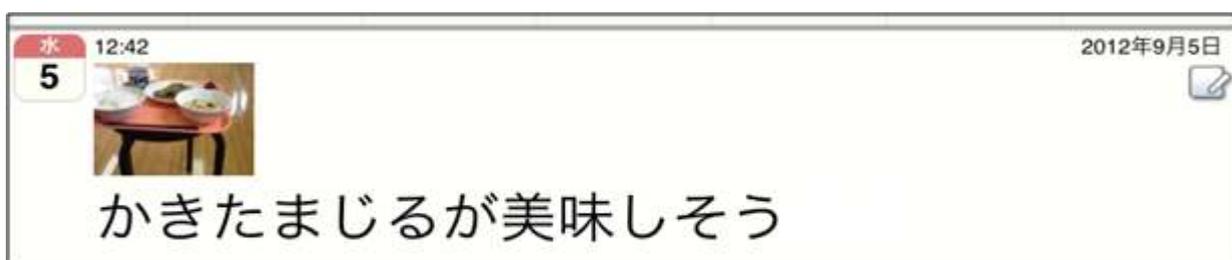
「瞬間日記（写真日記）」では、写真を撮り、その写真を手がかりに日記を書くことができるため、「何を書いたらいいの？」といった書き出しに時間がかかることが少なくなった。



【 自分の姿を見て説明の仕方を確認する A 児 】



【 モニターを見ながら操作する A 児 】



【 給食の写真を撮り、感想を入力する（初期の日記） 】

対象児の変化

- 自分の表現を動画で振り返ったり、テレビ画面上の画像をダイナミックに操作したりすることができた。
- 写真日記では、簡単な感想を入力することが習慣化し、作文への苦手意識が薄れた。
- 文字入力できる文字数が増えた。
- 入力の際の、変換予測機能を効率的に活用し始めた。

③ 「修学旅行」 授業の取り扱い：総合的な学習の時間、学校行事等

修学旅行に関してインターネットや地図で調べたり、まとめたりすることをねらった。さらに、その内容について友達や教師、保護者に「一人でプレゼンテーションする」、日記をつけて修学旅行を振り返る等という表現活動をねらった。

「Safari (インターネット)」を使い、修学旅行先のホテルやテーマパークのホームページを検索し、部屋を確認したり、アトラクションを調べたりすることができた。パソコンのキーボード入力とは違い、入力の際の腕の動きは小さな範囲でいいことや予測変換機能により、効率良く入力することができた。

「Keynote (プレゼンテーション)」を使い、体験したいアトラクションの紹介を、自分一人の操作で行うことができた。(プレゼンテーション資料は教師と一緒に作成した)

児童が入力した報告原稿をPDFファイルにして「iBooks」で開き、それを見ながら報告した。



2012年9月14日

今日はiPadをしました。グーグルアースが楽しかったです。修学旅行の説明しました。僕は、ハウステンボスでしたいことはキララというアトラクションがたのしみです。

【 ↑ 入力できる文字数が増えたA児の日記 】

【 ← iPad を操作して説明するA児 】



【テーマパークで写真を撮る】

【ホテルで日記をつける】

【日記のための取材をする】

対象児の変化

- 発表前に、読み上げ機能を使って自分の文章を再確認することができた。発表や司会場面では、画面を見ながら操作し、教師がそばに付き添わなくても一人で発表することができた。
- iPad を自在に操作する姿に、担任以外の教師や友達から「すごい！」と歓声をもらい、「一人でできた」という自信をもつことができた。
- 話す内容を、一人で視覚的・聴覚的に確認することができ、自信をもって話をしたり、簡潔に話したりすることができるようになってきた。
- 記録をとったり文章を入力したりすることを、楽しんでできるようになった。

4 報告者の気づきとエビデンス

(1) 報告者の主観的気づき

ア 学習に集中して取り組むことが増えた。

イ 友達や教師に自信をもって説明することができるようになった。

ウ 毎日、楽しんで日記をつけることができた。

エ 日記や記録を見直し、活動を振り返るようになった。

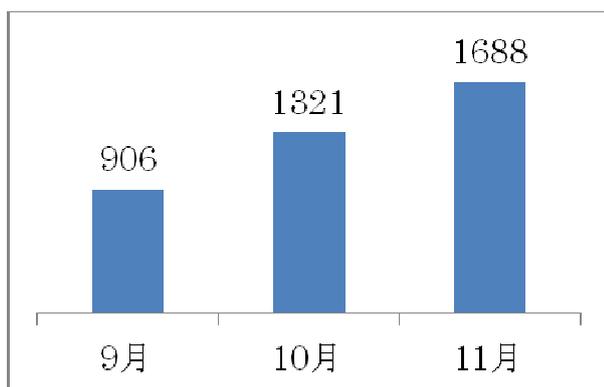
オ 作文に関しては、入力がスムーズになったこと、やり直しが簡単であること、画像を手がかりに思い返しができることにより、集中して取り組む時間が増えた。

カ 文章を書くことへの苦手意識が軽減し、長い文章を書くこともできるようになった。

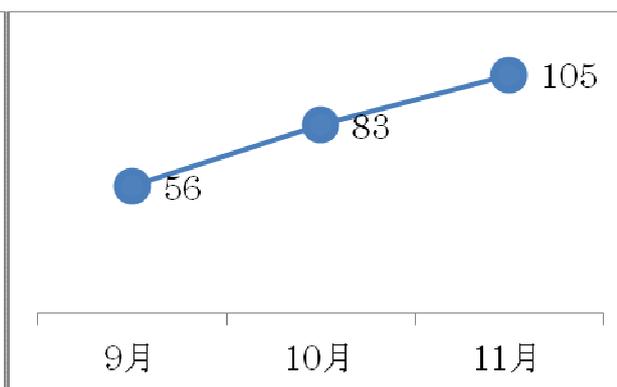
キ すぐに忘れてしまっていたエピソードも、思い出しが早くなり、思い出して書こうとする姿も見られるようになった。

(2) 主観的気づきに関するエビデンス

A児が入力した日記の文字数は、9月から11月にかけて1.5倍、1.9倍と増えている。また、日記1回につき入力した文字数も11月には平均105文字となった。



【 日記の総入力文字数 】



【 一回の日記に入力した文字数の平均 】

(3) 特徴的なエピソード

社会見学やクラブ等の学習において、自分で写真を撮って、日記を書くことに意欲的になった。

作文や文章を書くことへの苦手意識が格段に減り、長い文章も書くことが増えた。

一日に何回も日記をつけることもあり、文章表現も豊かになってきている。

教科の学習においても、「調べてみる」と自発的に活用しようとすることも増えた。



【 観察日記にも意欲的に取り組んだ 】